

ベニガラ谷 ~ 幻の連瀑帯 ~

【報告者】野村

【日時】平成19年9月8~9日 【天候】曇り

【参加者】武内(L)、稲田、石丸、福田、野村

コースタイム

1日目； 8:10 入渓 - 9:40 サンショウ谷出合 - 11:35 堰堤 - 11:50 軌道橋跡 -
13:05 堰堤 - 13:30 二股(700) - 15:00 三俣(泊)
2日目； 7:25 出発 - 8:50 二股(1000) - 9:10 高巻き開始 -
12:20 二股(1000)再出発 - 13:10 稜線(縦走路) -
14:50 傾山 - 16:00 林道(登山口) - 17:00 入渓地点

報 告

釜、ナメ、滝など様々な要素をもち、傾山の山頂近くに突き上げる美しい谷である。水量も適度で、中級者以上であれば、必ず最後まで快適で充実した遡行が楽しめる！
..... はずだった。

今回は、稲田さん、武内さんのリードの下でついて行くだけであったが、スキルアップを図り、次回いつになるかはわからないが、必ずや大岩壁の奥に続く連瀑帯を踏破することを誓うものである。是非とも来年中にはリベンジしたいものだ。大きな宿題をもらってしまったが、そこがまた沢登りの楽しさなのだぁ！！

全員、メッチャ疲れた山行だったようだ。

〔1日目〕

6:30 道の駅(宇目)を発ち、御泊集落を過ぎたあたりの道路脇に駐車し、ログハウス別荘手前より小道を下る。

8:10 入渓(290)。ゴー口を辿って間もなく堰堤が現れ、右から越える。昨今の台風で相当な土砂が堆積しており、沢水は伏流している。二股は左を進む。再びゴー口となる。浅いゴルジュを過ぎ、釜をへつってしばらくゴー口を行くと100mほどの快適なナメとなる。

8:55 ゴルジュとなり、釜をもつ8m斜め滝が見える。右をへつり、さらに釜を泳ぎ、残置シュリングをたよりに壁を越える。釜の三連チャン。おまけもある。

9:40 サンショウ谷との出合。ゴー口を進むと小釜の4m滝があるがゴー口は続く。

10:45 右に支沢を分け(450)、ゴルジュをしばらく行くと滑らかに流れる透明な滝が現れる。落口から釜に向って頭からすべり台ダイブ。クリスタルを散りばめたソーダジュレような空間に包まれる爽快な気分が味わえる。晴れていれば。

11:25 本流は左に直角に折れ、100mほどのナメとなる。堰堤を左から越え、左に支沢の滝を見送ると、10m滝が現れる(11:50)。空荷で左を攀じり、ザックを引き上げる。落口には軌道の橋脚が残っている。通過に1時間弱を要した。続く堰堤を左から越え、ナメとゴールのミックス帯を行くと二股があり、支谷を左に分ける。

13:30 2段40m滝。下から見上げると本流がまっすぐ滝となって続いているように見える。上段の15m斜め滝は実は支沢の滝で、本流はその手前を左に曲がって続いている。ねじれ滝である下段は右より高巻く。ナメや小滝、釜が適度に続くが、河床には岩塊とともに倒木が多くなり、荒れた感じがする。昨今の台風によるものであろう。4m滝を越えると間もなく今夜の宿营地である三股に到着(15:00)。

沢中泊の大きな楽しみが焚き火。榎火よ燃えろ、榎火よ燃えろ！

〔2日目〕

7:25 遡行開始。すぐにインゼルとなり、続いて涸れ滝が4本。2つ目の滝の直下で左から支沢が出合う。これよりゴルジュとなり3つ目の15m滝は念のためロープを出す。水流は心細くなり、早めの給水。4つ目は4mほどの滝。

8:00 ゴルジュ内に10m滝が現れ、ロープを使用して通過。

8:50 やや開けたガレ谷との出合。ガレ谷に入りかけたが、本流に戻り遡行を続ける。目の前の20m斜め滝を左からやや巻き気味に越え、さらに6m滝を越えると15m滝が立ちはだかる。右の急斜面を登るが途中で行き詰る。偵察のため稲田さんが壁のやせ尾根を登る。続いて武内さん。さらに上がればもはや谷には下りられそうもなく、先の谷底に下りるには懸垂下降を繰り返さなければならないほどの状況にあるとのこと。しかし、本流には美しい大滝が何段にもわたって続いているという。荘厳なる連瀑帯。(ガイドブックとの記載とはチョッと違うような気もするが.....) ここで高巻きをあきらめ、本流の遡行を断念する。滝下の谷底まで下り、さらに懸垂下降で登ってきた滝を降り、先のガレ谷との出合に戻る。

12:20 出合を出発、ガレ谷を詰める。この谷は直線状に伸びており断層破碎帯もはっきり認められる。ガレは浮き石ばかりのため落石に細心の注意を払いつつ、たいしたヤブ漕ぎもなしに13:10には稜線の縦走路に出た。が、ここはまだ標高1225m。傾山を目指してまだまだ縦走路を登らなければならない。

14:45 頂上直下の分岐に到着。武内、福田、野村の3名は山頂を踏みに行く。沢登りで山頂を踏むのは入会以来初めてのこと。久しぶりに三角点に触れたような気がする。そして筋肉を引きつらせながら下山路を辿ったのだが、無茶苦茶しんどかった。

遊行図

H19. 9. 8~9 (野村)

